「食育の推進」に関する施策の体系

4つの視点	5つの基本的施策	施策の方向性	取り組むべき施策	検証指標
1 全ての市民の食育への理解の増進	Ⅰ 「市民自らが育む食」への理解と健全な食生活の実践	（1）家庭における食育の推進	1)「食卓」の重要性についての啓発 2) 食を楽しむことについての啓発 3) 男女共同参画による食育の推進	①食育に関心がある市民の割合 ②朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加 ※1週間のうち朝食又は夕食を家族と一緒に食べる回数 ③1週間あたりの朝食について ※幼児は「毎日食べる割合」、他は「ほとんど食べない」と 答えた割合 ④体験型食育活動の取り組み（実施園数/全施設数）【保育所等】 ⑤体験型食育活動の取り組み（実施園数/全施設数）【幼稚園等】 ⑥授業参観・懇談会等で保護者へ食育の啓発を行った学校の割合 ⑦企業、大学等での食育に関する講座の開催（件数）
		（2）生涯にわたる食育の推進	4) 子どもの頃からの体験を通じた食育 5) 保育所・幼稚園・学校等における食育の推進 6) 若い世代や働きざかりに対する食育の推進 7) 高齢者に対する食育の推進 8) 給食を活用した食育の推進	
2 健全な食生活が実践できる環境整備	Ⅱ 健全な食生活を実践するための環境整備	（1）健康寿命の延伸に向けた食に関する情報の発信	9)「食事バランスガイド」「食育ガイド」等を活用した食生活の実践への支援 10) 生活習慣病予防等についての啓発	⑧ 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合 ⑦【再掲】企業、大学等での食育に関する講座の開催（件数） ⑨栄養に関する表示等を参考にしている市民の割合 ⑩生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践している市民の割合 ⑪食育の推進に関するボランティア数 ⑫「健康づくりできます店」の登録数
		（2）食生活改善をサポートする人材の育成	11) 管理栄養士・栄養士、専門調理師等、専門的知識を有する人材の育成と活用促進 12) 食生活改善推進員等、地域支援者の育成	
		（3）食品関連事業者等と連携した食育の推進	13) 飲食店や食品販売店におけるヘルシーメニューの提供促進 14) 食品工場見学等、体験を通じた食育の推進 15) 事業者等に対する食育の普及啓発の促進 16) 事業者から発信する食育	
3 市民運動としての食育の推進	Ⅲ 市民運動としての食育の展開	（1）市民協働による食育運動の展開	17) 食育に関する機運の醸成 18) 関係団体と連携した食育運動の展開	①【再掲】食育に関心がある市民の割合 ⑬「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」における連携活動した団体等の割合 ④【再掲】体験型食育活動の取り組み（実施園数/全施設数）【保育所等】 ⑤【再掲】体験型食育活動の取り組み（実施園数/全施設数）【幼稚園等】 ⑭住民主体の通いの場（高齢者健康サロン等）の数
		（2）食育支援団体のネットワークの整備	19) 関係団体とのネットワーク体制の整備と情報の一元化	
		（3）地域における食育の展開	20) 世帯構造や生活の多様性をふまえた食育	
4 「くまもとらしさ」を活かした食育の推進	Ⅳ くまもとの自然環境と食文化に根ざした食育の推進	（1）生産者と消費者の交流促進	21) 生産者と消費者の交流会の開催 22) 農林漁業体験を通じた食育活動の推進	⑮農林漁業体験を経験した市民の割合 ⑯進んで地元農産物を購入する市民の割合 ⑰市内における農産物直売所の販売額 ⑱学校給食における地元農産物の使用割合 ⑲家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合 ⑳ごみを少なくするため「買いすぎ」「作りすぎ」をしないよう心がけている市民の割合 ㉑熊本市の良質な水がおいしさの基になっていると思う市民の割合 ㉒「もったいない！食べ残しゼロ運動」協力店の登録数
		（2）地産地消の促進	23)「くまもとらしさ」を活かした地産地消の推進 24) 学校給食や飲食店等への地元産物のPRと活用促進	
		（3）くまもとの食文化の伝承	25) 伝統料理や郷土料理等に関する情報提供の促進 26) 関係団体との連携による食文化伝承に関わる活動の推進	
		（4）食の循環や環境を意識した食育の推進	27) 食育を通じた環境保全 28) 環境保全体験を通じた食育活動の推進	
	Ⅴ 食育を通じた食の安全・安心の確保（共通）	（1）災害に備える食を含めた、食の安全性や栄養等に関する理解の促進	29) 食の安全性に関する体験を通じた食育活動の推進 30) 食育を通じた食の安全に関する情報の共有化 31) 基礎的な調査・研究等の実施 32) 災害時に備える食育の推進	㉓災害に備えて飲料水や食料を7日分以上備蓄している市民の割合

※③⑧⑩⑳については若い世代【20歳代、30歳代】についても指標化する